

ル間、旁憚存候、枉テ今度ノ大將ヲバ餘人ニ被仰付候ヘトゾ被申ケル、
〔平家物語六〕入道逝きよの事

入道相國の北の方、八條の二位殿の夢に見給ひける事こそおそろしけれ、たとへばみやう火のおびた、しうもえたる車の、主もなきを、門の内へやり入たるをみれば、車の前後に立たるものは、あるはうしのおもてのやうなるもの有、あるひは馬のやうなるものも有、車の前には、無といふ文字ばかりあらはれたる、くろがねのふだをぞ打たりける、二位殿夢の内に、是はいづくよりいづちへととひ給へば、平家太政の入道殿の、悪行てうくはし給へるによつて、ゑんま王宮よりの、御むかひの御車也と申す、さてあのふだはいかにととひ給へば、南ゑんぶだいこんどう十六丈のるしやな佛、やきほろぼし給へるつみによつて、無間のそこにしづめ給ふべきよし、ゑんまのちやうにて御さた有しが、むげんの無をばか、れたれ共、いまだ間の字をばか、れぬ也とぞ申ける、二位殿夢さめて後、あせ水になりつゝ、是を人にかたり給へば、聞人皆身のけよだちけり、〔玉海〕治承五年○養和元年閏二月廿六日壬申、今旦覺乘得業來、只今下向南都云々、此次語云、故藏俊僧都云、春日御社御正體、眞實者金剛般若經也、慥有所見云々、今聞此語、余○藤原兼實所見之夢想、正夢之條、更無疑事歟、仰可信用者也、

元曆二年八月一日辛亥、此日、佛嚴聖人語曰、去頃有夢想事、著赤衣之人來、彼聖人房奉修法皇(後白河)御祈之壇所傍之、謁聖人曰、今度大地震、依衆生罪業深重、天神地祇成眞也、依源平之亂、死亡之人滿國、是則依各々業障、報其罪也、然而所歸猶在君、何況其外非法濫行、不德無道、不可勝計、且又流人之間、有不誤之輩等、如此等事、頗不被施、慈仁者、天下不可叶、汝等所修之御祈、凡衆僧之御祈等、効驗難量、可悲々々、然間下官○藤原兼實手取丈尺之杖、降立地上、糺定京都之狼藉、始自九條、漸入京中、欲及一條、或壞退人屋、或洒掃路頭、糺其非違、忽通正路、聖人中心悅、此事爰赤衣人語、聖人云、爲彼御沙汰指下官也、被行此法者、